

GREEN PLASTIC

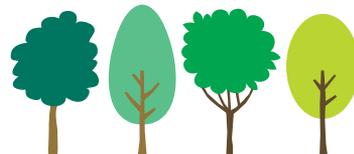
プラスチックの特徴の一つが頑丈さ。ペットボトルは自然分解されるのに400年かかると言われます。ところがプラスチックには微生物の働きでもっと短い期間で分解される、生分解性プラスチックも存在します。

地球にやさしい？ そうじゃない？ ここでは環境とプラスチックを考えてみます。

そもそもプラスチックって何から出来てるの？

多くのプラスチックは石油資源から出来ています。

その他に植物由来のバイオマス・プラスチックも存在します。



バイオマスプラスチックなら当然自然に還るの？

生分解性は石油資源プラスチックにもその機能を持つものがあり、バイオマスプラスチックでも生分解性を持たないものがあります。

生分解性であれば自然の中に捨てても大丈夫？

生分解性は微生物の働きで分解されるので、微生物が活動できない環境では分解が進みません。捨てても大丈夫、ではありません。



バイオマスプラスチックは自然にやさしい？

資源の使用として考えると、枯渇のおそれがある石油資源に比べて、バイオマスの割合を増やすことは、地球にやさしいと考えられます。ただ現時点ではその製造に多くの石油資源を消費するので、決して環境負荷が低いわけではありません。



プラスチックごみが話題になるこの頃、その対策として期待されるのが「生分解性」と「バイオマス・プラスチック」。確かに大きなメリットはありますが、それで全ての問題が解消される訳ではありません。

例えば生分解性に過度の期待をしてしまうとポイ捨てを誘発しかねず、バイオマスでの環境負担軽減を見込んで資源の有効利用がおろそかになる可能性もあります。

今後を期待するのには変わりはありませんが、まず今は使い捨てのプラスチックを減らす、リサイクルを進めるなど、資源を無駄にしない事が何よりも大切です。



Keep the Ocean Clean!



MEER